

# 日本教育方法学会

## 第47回大会プログラム

|                |       |                          |
|----------------|-------|--------------------------|
| 前日<br>9月30日(金) | 17:00 | 理 事 会 受 付                |
|                | 17:30 |                          |
|                | 19:00 | 全 国 理 事 会 (ホテルメトロポリタン秋田) |

|                             |       |                                                                    |               |               |               |               |               |               |
|-----------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 第<br>一<br>日<br><br>10月1日(土) | 8:30  | 受 付 開 始                                                            |               |               |               |               |               |               |
|                             | 9:15  | 特 別 課 題 研 究<br>東日本大震災と教育方法学の課題<br>— 今、何ができるか —                     |               |               |               |               |               |               |
|                             | 11:15 |                                                                    |               |               |               |               |               |               |
|                             | 11:20 |                                                                    |               |               |               |               |               |               |
|                             | 12:10 | 総 会                                                                |               |               |               |               |               |               |
|                             | 13:00 | 休 憩                                                                |               |               |               |               |               |               |
|                             |       | 自由<br>研究<br>1                                                      | 自由<br>研究<br>2 | 自由<br>研究<br>3 | 自由<br>研究<br>4 | 自由<br>研究<br>5 | 自由<br>研究<br>6 | 自由<br>研究<br>7 |
|                             | 15:40 |                                                                    |               |               |               |               |               |               |
|                             | 15:50 | 公 開 シ ン ポ ジ ウ ム<br>秋田の教育と学力から見えてくるもの<br>— 全国学力・学習状況調査の結果をどうとらえるか — |               |               |               |               |               |               |
|                             | 18:20 |                                                                    |               |               |               |               |               |               |
|                             | 18:30 |                                                                    |               |               |               |               |               |               |
|                             | 20:00 | 会 員 懇 親 会                                                          |               |               |               |               |               |               |

|                             |         |                                                         |                   |                   |                                                        |                   |                                 |                   |                  |
|-----------------------------|---------|---------------------------------------------------------|-------------------|-------------------|--------------------------------------------------------|-------------------|---------------------------------|-------------------|------------------|
| 第<br>二<br>日<br><br>10月2日(日) | 8 : 30  | 受 付 開 始                                                 |                   |                   |                                                        |                   |                                 |                   |                  |
|                             | 9 : 00  | 自由<br>研究<br>8                                           | 自由<br>研究<br>9     | 自由<br>研究<br>10    | 自由<br>研究<br>11                                         | 自由<br>研究<br>12    | 自由<br>研究<br>13                  | 自由<br>研究<br>14    | 自由<br>研究<br>15   |
|                             | 12 : 10 | 休 憩                                                     |                   |                   |                                                        |                   |                                 |                   |                  |
|                             | 13 : 15 | 課題研究Ⅰ<br>教育方法学における<br>学問的固有性とは何か<br>—算数・数学教育と理科教育の視点から— |                   |                   | 課題研究Ⅱ<br>学校における言語活動の<br>充実をどうはかるか<br>—各教科における言語活動のあり方— |                   | 課題研究Ⅲ<br>教職スタンダードと<br>教員養成教育の充実 |                   |                  |
|                             | 15 : 15 |                                                         |                   |                   |                                                        |                   |                                 |                   |                  |
|                             | 15 : 30 | ラウンド<br>テーブル<br>①                                       | ラウンド<br>テーブル<br>② | ラウンド<br>テーブル<br>③ | ラウンド<br>テーブル<br>④                                      | ラウンド<br>テーブル<br>⑤ | ラウンド<br>テーブル<br>⑥               | ラウンド<br>テーブル<br>⑦ | ワーク<br>ショップ<br>① |
|                             | 17 : 00 | ①                                                       | ②                 | ③                 | ④                                                      | ⑤                 | ⑥                               | ⑦                 | ⑧                |
|                             |         |                                                         |                   |                   |                                                        |                   |                                 |                   |                  |
|                             |         |                                                         |                   |                   |                                                        |                   |                                 |                   |                  |
|                             |         |                                                         |                   |                   |                                                        |                   |                                 |                   |                  |

2011年10月1日(土)・10月2日(日)  
於 秋田大学(手形キャンパス)

# 大会参加要領

1. 会場案内：会場は、秋田大学(手形キャンパス)です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。

2. 受付：両日ともに8:30からとなります。

受付は教育文化学部3号館1階ピロティで行います。

- ・大会参加費(『大会発表要旨』代を含む)は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
- ・当日会員(臨時会員)もこれに準じて受け付けております。
- ・本年度までの学会費(一般会員8,000円、学生会員6,000円)を未納の方は、あわせてお納めください。
- ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法40』をお渡しします。
- ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は4,000円となっております。詳しくは、12頁の「インフォメーション」をごらんください。
- ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。

3. 昼食：両日とも、大学会館(生協食堂)が営業しておりますので、ぜひご利用ください。

4. 研究発表：発表会場につきましては、4・5頁の「会場配置図」をご覧ください。

- ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。

個人研究：発表20分 質疑10分

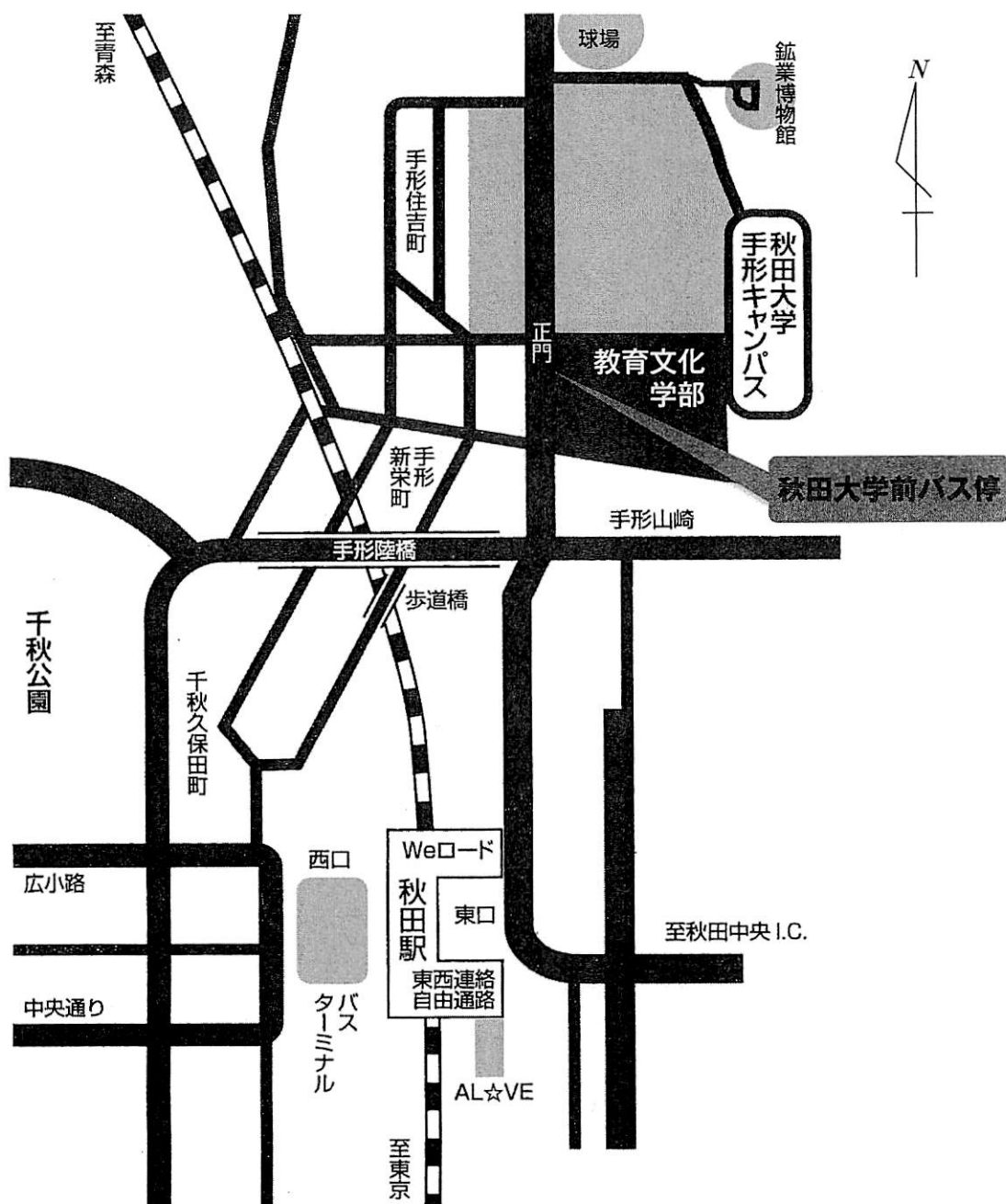
共同研究：発表30分 質疑10分

(但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。)

- ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。

※大会に関するお問い合わせは、3日前の9月28日までに学会事務局 (TEL/FAX: 082-424-6744) をお願いいたします。

## 〈秋田大学(手形キャンパス)案内図〉

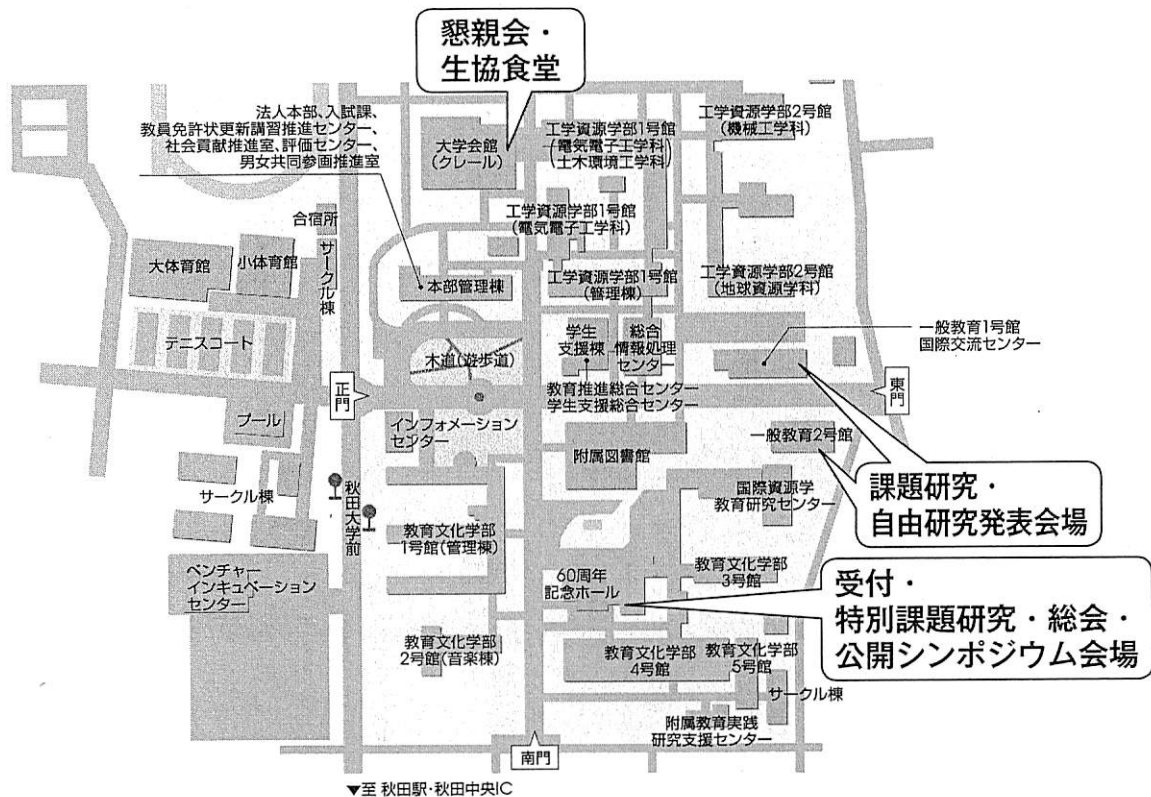


## 〈交通手段のご案内〉

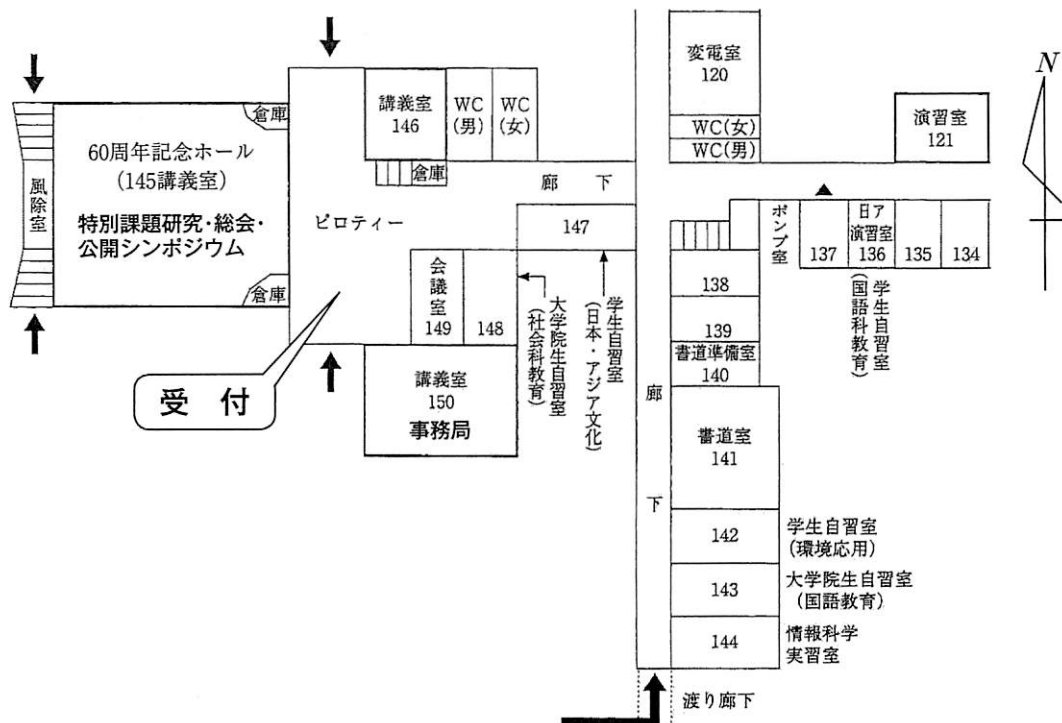
- ①秋田駅西口バスのりば4番線から秋田中央交通手形山団地線(「大学病院」行き)「秋田大学前」下車
- ②秋田駅東口から手形キャンパスまで徒歩15分(約1.3km)

※秋田駅からタクシーをご利用の場合は、「秋田大学手形キャンパス正門」をご指定いただくと、便利です。

## 〈会場配置図〉



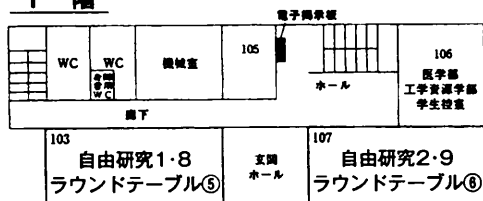
教育文化学部3号館



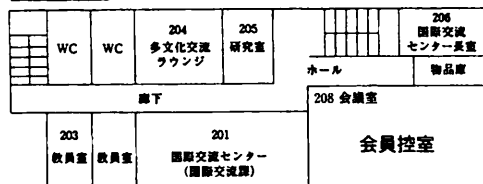
# 一般教育1号館

# 一般教育2号館

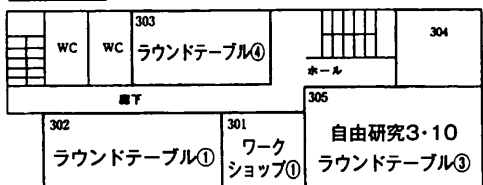
## 1 階



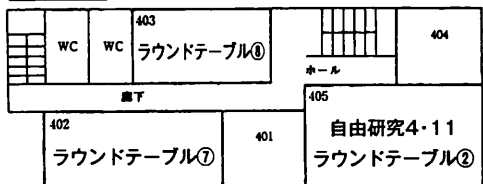
## 2 階



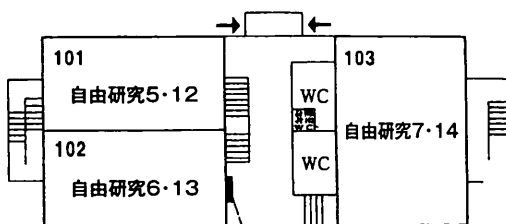
## 3 階



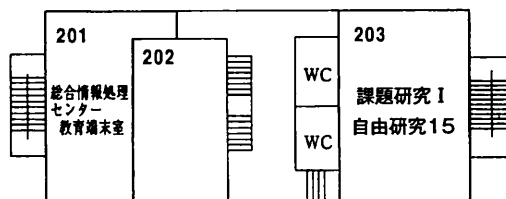
## 4 階



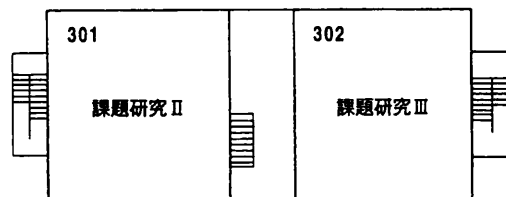
## 1 階



## 2 階



## 3 階



## 会場配置

受 付：教育文化学部 3号館 1階ピロティ  
特別課題研究・総会・公開シンポジウム：  
60周年記念ホール

(教育文化学部 3号館 1階145講義室)

課題研究Ⅰ：一般教育2号館 2階203講義室  
課題研究Ⅱ：一般教育2号館 3階301講義室  
課題研究Ⅲ：一般教育2号館 3階302講義室  
自由研究1・8：一般教育1号館 1階103講義室  
自由研究2・9：一般教育1号館 1階107講義室  
自由研究3・10：一般教育1号館 3階305講義室  
自由研究4・11：一般教育1号館 4階405講義室  
自由研究5・12：一般教育2号館 1階101講義室  
自由研究6・13：一般教育2号館 1階102講義室  
自由研究7・14：一般教育2号館 1階103講義室  
自由研究15：一般教育2号館 2階203講義室

ラウンドテーブル①：一般教育1号館 3階302講義室  
ラウンドテーブル②：一般教育1号館 4階405講義室  
ラウンドテーブル③：一般教育1号館 3階305講義室  
ラウンドテーブル④：一般教育1号館 3階303講義室  
ラウンドテーブル⑤：一般教育1号館 1階103講義室  
ラウンドテーブル⑥：一般教育1号館 1階107講義室  
ラウンドテーブル⑦：一般教育1号館 4階402講義室  
ラウンドテーブル⑧：一般教育1号館 4階403講義室  
ワークショップ①：一般教育1号館 3階301講義室

会員控室：一般教育1号館 2階208会議室

事務局：教育文化学部 3号館 1階150講義室

※会員懇親会の会場は、秋田大学学生会館（生協食堂）です。

10月1日(土) 9:15~11:15

特別課題研究

東日本大震災と教育方法学の課題

— 今、何ができるか —

(60周年記念ホール：教育文化学部3号館1階145講義室)

コーディネーター

梅原利夫(和光大学)

湯浅恭正(大阪市立大学)

司会者

中野和光(美作大学)

湯浅恭正(大阪市立大学)

提案者

小泉祥一(東北大学) 東日本大震災からの復興と学校教育の課題 … 29

小川嘉憲(兵庫民主教育研究所, 元兵庫県西宮市立瓦木中学校)

命をつなぐ教育と学校を！

—阪神・淡路大震災の体験から— …… 31

梅原利夫(和光大学) 教育方法学の問い直しと再出発へ向けて …… 33

〈設置趣旨〉

東日本大震災は、地震・津波・原発の天災と人災の巨大な複合災害をもたらした。災害は現在も進行中であり、加えて非常時の避難生活と復旧と復興、放射能汚染地域からの強制避難など、事態は深刻であり、日本全体の安全や危機管理体制が問われている。

巨大複合災害によって、多数の子どもや青年、教師や教育関係者が犠牲になり、また生き残った者も生命と生活を脅かされている日々を送っている。

私たちは、生命の安全と安心を前提として営まれる教育および教育学を探究する者として、これほどの死者・行方不明者・負傷者を生んでしまったことを反省し、いまなお困難な生活を強いられている人々にできる限りの支援を行わなければならないと決意している。

加えて教育方法学は、生命の安全を確実に保障し、地域に根ざして生きる力を育てる学習と行動の指導に責任を負う分野であり、これらの点についてこれまでの実践と研究の内容や成果が十分であったのか、厳しい自己点検と分析が求められている。

問題提起の柱は、次の3本である。

①被災地の東北から、子ども・教師・学校・地域の実態と復興課題を示す。

②阪神・淡路大震災の経験から、被災地で子どもへの教育と学校の役割を提案する。

③教育方法学は、これまで何をしてきたか、これからの課題は何かを提起する。

本特別課題研究は、大会冒頭に置かれ、会員相互による真摯な問題提起と意見交換が期待されている。

10月1日(土) 13:00~15:40

自由研究1 (一般教育1号館1階103講義室)

司会者 高田 清 (元・福岡教育大学)  
望月 一枝 (秋田大学)

- 13:00 ① 国際教育協力における授業研究の課題  
ーザンビア教師の授業実践における創造性に着目してー ..... 35  
石井 洋 (広島大学大学院)
- 13:30 ② 現実の課題と向き合う社会構成主義的協働学習 (PBL)  
ー民主的社会の市民性の形成と生成をめざしてー ..... 36  
広石 英記 (東京電機大学)
- 14:00 ③ ドイツ政治教育の授業記録の分析枠組みに関する事例研究  
ーNRW ギムナジウムの授業実践分析を通してー ..... 37  
的場 正美 (名古屋大学)
- 14:30 ④ 北方性教育運動と「生活綴方的教育方法」(2)  
ー東北民教研の実態調査からー ..... 38  
○臼井 嘉一 (国士舘大学)  
田中 武雄 (共栄大学)  
○土屋 直人 (岩手大学)  
板橋 孝幸 (奈良教育大学)

自由研究2 (一般教育1号館1階107講義室)

司会者 秋田 喜代美 (東京大学)  
小柳 和喜雄 (奈良教育大学)

- 13:00 ① 数学教育改造運動の展開  
ーチャールズ・ゴドフレーに着目してー ..... 39  
大下 卓司 (京都大学大学院)
- 13:30 ② 小学校算数「量の測定」における操作活動と概念の拡張 ..... 40  
中島 淑子 (名古屋大学大学院)
- 14:00 ③ 関数概念としての「学力」  
ー勝田守一の「計測学力論」の再評価を手がかりにー ..... 41  
小笠原 喜康 (日本大学)
- 14:30 ④ 日本における「探究の過程」の受容に関する一考察 ..... 42  
石井 恭子 (福井大学)
- 15:00 ⑤ 理科授業における談話の分析枠組  
ー動的意味論を使った解釈の試みー ..... 43  
大野 栄三 (北海道大学)

10月1日(土) 13:00~15:40

自由研究3

(一般教育1号館3階305講義室)

司会者 田端健人(宮城教育大学)  
長尾彰夫(大阪教育大学)

- 13:00 ① オーストリアにおける教育スタンダードと中等教育改革 ..... 44  
伊藤実歩子(甲南女子大学)
- 13:30 ② リテラシー教育のコミュニケーション構造に関する検討  
—贈与—交換関係から見た実践的課題— ..... 45  
竹川慎哉(中部大学)
- 14:00 ③ 沖縄から「学力問題」をひらく共同授業研究(1)  
—小学校低学年「国語」を中心に— ..... 46  
○村上呂里(琉球大学) ○辻雄二(琉球大学)  
○上間陽子(琉球大学) ○望月道浩(琉球大学)  
○新本陽子(沖縄県石垣市立八島小学校) 儀保由喜子(沖縄県石垣市立八島小学校)  
宮良弥生(沖縄県竹富町立上原小学校)
- 14:40 ④ 沖縄から「学力問題」をひらく共同授業研究(2)  
—小学校高学年「社会科」を中心に— ..... 47  
○山口剛史(琉球大学)  
○山田章子(沖縄県石垣市立八島小学校)  
○平地竜樹(沖縄県石垣市立平間小学校)  
上間陽子(琉球大学)

自由研究4

(一般教育1号館4階405講義室)

司会者 西岡けいこ(香川大学)  
久田敏彦(大阪教育大学)

- 13:00 ① 自律の一契機としての自己開示の意味 ..... 48  
関根宏朗(東京大学大学院)
- 13:30 ② 小学校における学級秩序形成メカニズムの特質  
—小学校学級制度の歴史的視角からの考察— ..... 49  
早坂淳(長野大学)
- 14:00 ③ 幼児教育における「場」の一考察  
—主体成立の根拠をめぐって— ..... 49  
伊澤貞治(皐月幼稚園)
- 14:30 ④ 演劇的手法を用いた学習活動における教師の役割  
—イギリスのドラマ教育の実践をもとに— ..... 50  
渡辺貴裕(帝塚山大学)
- 15:00 ⑤ 学級活動における儀式性と演技性の意義  
—学習の「主体性」確立の土台として— ..... 51  
○小川博久(聖徳大学)  
○岩田蓮子(東京都市大学)



10月1日(土) 13:00~15:40

自由研究5

(一般教育2号館1階101講義室)

司会者 木内 剛(成蹊大学)  
船越 勝(和歌山大学)

- 13:00 ① 学内ネットワーク等を利用した対話型の社会科指導法授業  
—非教員養成系大学における社会科教師教育の教育方法学的検討— … 52  
佐藤 徹(東海大学)
- 13:30 ② 新聞記事を使った地理学習方法論の研究  
—英国地理教材“Jigsaw Pieces”の場合— … 53  
西川 京子(安田女子大学)
- 14:00 ③ 総合社会科にもとづく高等学校の歴史授業研究  
—多様な社会認識の往還をめざした学習に関する分析— … 54  
堀田 貴之(名古屋大学大学院)
- 14:30 ④ 社会的危機状況における和文化教育の意義  
—天空に向けて舞い揚げよう「鯉のぼり」活動をてがかりに— … 55  
中村 哲(兵庫教育大学)
- 15:00 ⑤ アイヌ・おきなわ・インドネシア  
—小学校2年生の子どもたちと紡ぐ世界認識— … 56  
山 岸 早 苗(有明教育芸術短期大学・非常勤講師)

自由研究6

(一般教育2号館1階102講義室)

司会者 田代 裕一(西南学院大学)  
水原 克敏(東北大学)

- 13:00 ① 習得・活用・探究の連続関係をコア・カリキュラムで読み解く … 57  
金馬 国晴(横浜国立大学)
- 13:30 ② ドルトン・プランにおけるカリキュラム2010-2011の研究 … 58  
伊藤 朋子(種智院大学)
- 14:00 ③ 特別活動の指導と教科学習における協働的な認識形成メカニズムの差異に関する  
基礎的検討 … 59  
水野 正朗(名古屋市立桜台高等学校)
- 14:30 ④ 総合カリキュラムに見られる教育案の特徴  
—1970年代以降の明石附小の実践資料を手がかりに(1)— … 60  
溝邊 和成(兵庫教育大学)

10月1日(土) 13:00~15:40

自由研究7

(一般教育2号館1階103講義室)

司会者 梅原利夫(和光大学)  
田代高章(岩手大学)

- 13:00 ① アメリカ合衆国における学習障害児教育の検討  
ーRTIの意義と課題ー ..... 61  
羽山裕子(京都大学大学院)
- 13:30 ② 海洋教育の実践とカリキュラム開発の動向  
ー「グランドデザイン」からの示唆と展開可能性を展望してー ..... 62  
河野麻沙美(東京大学・特任講師)
- 14:00 ③ 津波から命を守る減災教育のこれまでとこれから  
ー避難・復興・防潮林を中心にー ..... 63  
若菜博(室蘭工業大学)
- 14:30 ④ 東日本大震災後の学校の現状と教育課題  
ー被災地からの報告としてー ..... 64  
佐藤幸也(宮城学院女子大学)
- 15:00 ⑤ 東日本大震災に対して、私たち学生ができることとは  
ー教職科目「教育方法・課程論(特活含)」でのグループワークの実践研究  
からー ..... 65  
○小島勇(東京電機大学)  
○岩澤卓弥(東京電機大学理工学部)

10月1日(土) 15:50~18:20

公開シンポジウム

秋田の教育と学力から見えてくるもの  
— 全国学力・学習状況調査の結果をどうとらえるか —

(60周年記念ホール：教育文化学部3号館1階145講義室)

コーディネーター

阿部 昇(秋田大学)  
田中 耕治(京都大学)

司会者

折出 健二(愛知教育大学)  
田中 耕治(京都大学)

提案者

志水 宏吉(大阪大学) 学力日本一の秘密  
— 秋田のハイパフォーマンスの社会学的分析 — ..... 66

松下 佳代(京都大学) 全国学力・学習状況調査と PISA の同型性  
— JELS の経験をふまえて — ..... 69

阿部 昇(秋田大学) 全国学力・学習状況調査、秋田県の結果が日本の  
教育に提起できること ..... 71

〈設定趣旨〉

秋田県は、2007年から始まった全国学力・学習状況調査で4年連続トップクラスの成績を残しました。この学力調査をめぐる様々な論議があります。しかし、秋田県4年連続トップクラスの状況を多面的に分析・検討することで、今の日本の教育や学力のあり方を再検討するための糸口が見えてくる可能性があります。

本シンポジウムでは、全国学力・学習状況調査のあり方を検討しつつ、秋田県4年連続トップクラスの内実を分析・検討し、そこから日本の教育制度、教育行政、授業研究、学力検査(評価)、地域・家庭・学校の関係性、地域共同体のあり方等に関する課題をあぶり出していきたいと考えました。

大阪大学の志水氏には、全国学力・学習状況調査に関する全国的な調査結果と秋田県の結果とを比較・検討しながら問題提起をしていただきます。京都大学の松下氏には、お茶の水女子大学21世紀COEプログラムにおいて算数・数学学力調査に関わった際の経験や知見を生かしつつ、問題提起をしてもらいます。秋田大学の阿部氏には、秋田県検証改善委員会の委員長として秋田県の調査結果の分析をしてきた立場から問題提起をしてもらいます。また、国語科教育の立場からの提起もお願いしています。

# インフォメーション

## ●会員総会

日 時 : 第一日(10月1日(土)) 11:20~12:10  
会 場 : 60周年記念ホール(教育文化学部3号館1階145講義室)  
主な議題 : 会務報告  
2010年度決算  
2012年度予算案  
次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

## ●会員懇親会

日 時 : 第一日(10月1日(土)) 18:30~20:00  
会 場 : 大学会館(生協食堂)  
会 費 : 4,000円

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。秋田の銘酒もご用意してお待ちしておりますので、多数の会員のみなさまのご参加をお願いいたします。

## ●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』、『大会発表要旨』の最新刊およびバックナンバーを、大会割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

なお、『教育方法』最新刊(第40巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。

10月2日(日) 9:00~12:10

自由研究8

(一般教育1号館1階103講義室)

司会者 奥平 康照(和光大学)  
三橋 謙一郎(徳島文理大学)

- 9:00 ① 教師の省察的实践における情動の物語  
—授業中の情動的出来事に対する高校教師の語りの事例分析— ..... 73  
木村 優(福井大学)
- 9:30 ② 「実践的指導力」についての一考察  
—教職大学院における実践から— ..... 74  
前田 輪音(北海道教育大学)
- 10:00 ③ 授業における教師の道徳的知覚  
—J・ギャリソンの理論を手がかりに— ..... 75  
増田 美奈(東京大学大学院)
- 10:30 ④ Max van Manen における教育的タクトと教育学的思慮深さ ..... 76  
宮原 順寛(北海道教育大学)
- 11:00 ⑤ テスト作成過程の思考にみる中学校教師の実践的知識 ..... 77  
○細川 和仁(秋田大学)  
後藤 真一(後藤教育研究所)  
浅田 匡(早稲田大学)
- 11:30 ⑥ システム理論における「教育的タクト」  
—教育のパラドックスのコミュニケーション的変換と継続— ..... 78  
牛田 伸一(創価大学)

自由研究9

(一般教育1号館1階107講義室)

司会者 子安 潤(愛知教育大学)  
三上 勝夫(北海道文教大学)

- 9:00 ① 子どもの比喩表現と個の思考の枠組みに関する事例研究 ..... 79  
福村 美希(名古屋大学大学院)
- 9:30 ② 小学校1年生入門期算数授業における教師のフィードバック  
—言語活動を豊かにする形成的アセスメントを通して— ..... 80  
山本 佐江(東北大学大学院)
- 10:00 ③ 対話で深める学びのレッスン  
—「ムーンライト・シャドー」をめぐる冒険— ..... 81  
青木 幸子(跡見学園中学高等学校)
- 10:30 ④ 教室における逸脱的な言語活動と規範的な「学校言語」との関連性について  
—私語を起点に学校内のことばを捉え直す試み— ..... 82  
福田 学(新潟大学)
- 11:00 ⑤ 船戸咲子の「想像説明」の教授・学習機能の検討 ..... 83  
三橋 功一(北海道教育大学)
- 11:30 ⑥ 授業構成における社会言語学的接近の試み  
—「書くこと」に焦点を当てて— ..... 84  
○八木 秀文(安田女子大学)  
○伊東 陽子(広島市立比治山小学校)

自由研究10 (一般教育1号館3階305講義室)

司会者 阿部好策(新潟大学) 白井嘉一(国士馆大学)

|       |                                              |    |
|-------|----------------------------------------------|----|
| 9:00  | ① 発言相関表を使用する協同学習過程分析<br>ーグループの相関と教師の関わりにふれてー | 85 |
|       | 藤井佑介(九州大学大学院)                                |    |
| 9:30  | ② 校内研修ディスコースの産出機構                            | 86 |
|       | 鈴木悠太(東京大学大学院)                                |    |
| 10:00 | ③ 教育実践研究において「問うこと」とは?<br>ー質的研究の文脈からー         | 87 |
|       | 田端健人(宮城教育大学)                                 |    |
| 10:30 | ④ 授業研究における考察視点の検討                            | 88 |
|       | 櫻井眞治(東京学芸大学)                                 |    |
| 11:00 | ⑤ 授業実践の様相ー解釈的研究<br>ー「発言表」を使用する授業分析の意義と課題ー    | 89 |
|       | 田代裕一(西南学院大学)                                 |    |
| 11:30 | ⑥ 授業分析用中間記述言語による発言相互関連の定量化の試み                | 90 |
|       | 柴田好章(名古屋大学)                                  |    |

自由研究11 (一般教育1号館4階405講義室)

司会者 柴田義松(東京大学名誉教授) 豊田ひさき(中部大学)

|       |                                                                          |    |
|-------|--------------------------------------------------------------------------|----|
| 9:00  | ① 書くことを通じた思考力の育成に関するー考察<br>ー“Writing across the Curriculum”の理論と実践を中心としてー | 91 |
|       | 宮本浩紀(早稻田大学大学院)                                                           |    |
| 9:30  | ② 物語の授業における感想相互評価関連の分析<br>ー新美南吉【おじいさんのランプ】によるー                           | 92 |
|       | 中道豊彦(愛知県立知多翔洋高等学校)                                                       |    |
| 10:00 | ③ 児童詩教育の課題と展望<br>ー雑誌「きりん」における竹中郁の児童詩教育論ー                                 | 93 |
|       | 今宮信吾(関西大学初等部<br>関西大学・非常勤講師)                                              |    |
| 10:30 | ④ 雑誌【教育論叢】における子ども研究<br>ー「児童生活の記録」に拠る考察ー                                  | 94 |
|       | 吉村敏之(宮城教育大学)                                                             |    |
| 11:00 | ⑤ 国語科授業における演劇的手法の妥当性についての考察<br>ー教育目標からの方法論的妥当性ー                          | 95 |
|       | 谷口直隆(広島大学大学院)                                                            |    |
| 11:30 | ⑥ 文学の読みの指導を介した学習の共同化<br>ー授業指導の論点整理を中心にー                                  | 96 |
|       | ○今井理恵(日本福祉大学) 上森さくら(大阪市立大学・特任講師)                                         |    |
|       | 長瀬美子(大阪大谷大学) 久田敏彦(大阪教育大学)                                                |    |
|       | ○平田知美(和歌山大学) ○福田敦志(大阪教育大学)                                               |    |
|       | 船越勝(和歌山大学) 湯浅恭正(大阪市立大学)                                                  |    |

自由研究12

(一般教育2号館1階101講義室)

司会者 市川 博(帝京大学)  
三村 和則(沖縄国際大学)

- 9:00 ① 教師のエンパワーメントを実現する授業研究の条件(3)  
—発言表を手がかりとした「当事者主体型授業研究」の発言分析— … 97  
○大島 崇(九州大学大学院) 藤本 和久(慶應義塾大学)  
鹿毛 雅治(慶應義塾大学)
- 9:30 ② 公立中学校における授業研究の課題と実践について  
—言語活動に見る今後の可能性について— … 98  
岸田 裕一(鳥取県八頭町立船岡中学校)
- 10:00 ③ 公立学校における授業研究活性化の試み  
—子どもを見ることを徹底することから— … 99  
大杉 稔(滋賀県高島市立新旭北小学校)
- 10:30 ④ 教員のティーチング・スクリプトに関する研究  
—中学校の数学授業のコミュニケーションの国際比較授業分析— … 100  
サルカール アラニ・モハメッド レザ(星城大学・研究員)
- 11:00 ⑤ 校内研究における若手教員の成長と課題 … 101  
中妻 雅彦(愛知教育大学)
- 11:30 ⑥ 保存された授業記録に基づく授業研究  
—聞き取りによる教師と元児童の振り返りの比較の試み— … 102  
○田上 哲(九州大学) 大島 崇(九州大学大学院)  
○下地 貴樹(九州大学大学院) 藤井 佑介(九州大学大学院)  
○清水 良彦(九州大学大学院) ○木之下 慧剛(九州大学大学院)

自由研究13

(一般教育2号館1階102講義室)

司会者 木原 俊行(大阪教育大学)  
本田 敏明(茨城大学)

- 9:00 ① 大学生における〈授業外での活動/学習〉と〈授業での学習〉との関係づけの  
構造 … 103  
河井 亨(京都大学大学院)  
日本学術振興会特別研究員)
- 9:30 ② 大学生のメディア利用と映像制作実習のあり方 … 104  
武市 久美(東海学園大学)
- 10:00 ③ オープン・カレッジにおける経済学講義の実践について  
—資源配分に関する実践例より— … 105  
岩永 力男(大阪市立西淀川特別支援学校)
- 10:30 ④ クリティカル・ディスコース・スタディーに関する研究  
—子どもとメディアの関係理解の活用可能性の検討— … 106  
小柳 和喜雄(奈良教育大学)
- 11:00 ⑤ ユビキタス映像視聴システムを活用した教職課程履修生の授業実践能力育成支援  
の試み … 107  
○平山 勉(名城大学) ○後藤 明史(名古屋大学)  
竹内 英人(名城大学)

自由研究14

(一般教育2号館1階103講義室)

司会者 白石昌子(福島大学)  
白石陽一(熊本大学)

- 9:00 ① 体育の学習集団研究の方法論としての活動理論 ..... 108  
加登本 仁(広島大学大学院)
- 9:30 ② 大学体育の授業におけるチーム・ティーチングに関する一考察  
—外部講師によるヨガの授業を通して— ..... 109  
藤井 洋 武(東海大学・非常勤講師)
- 10:00 ③ 生活指導における教師の成長  
—信念の深化に焦点を当てたライフヒストリー的研究— ..... 110  
上 森 さくら(大阪市立大学・特任講師)
- 10:30 ④ 管理栄養士養成課程における臨地実習の試みを通じた自己概念の育成 ..... 111  
○手 嶋 哲 子(北海道文教大学)  
荒 井 眞 一(北海道文教大学)
- 11:00 ⑤ コミュニケーションを育むドラマの手法  
—教員免許状更新講習より— ..... 112  
武 田 富美子(立命館大学)
- 11:30 ⑥ いわゆる「ゆとり世代」学生の「被教育体験」意識を批判的に検討する ..... 113  
佐 藤 年 明(三重大学)

自由研究15

(一般教育2号館2階203講義室)

司会者 小 川 博 久(聖徳大学)  
豊 田 和 子(桜花学園大学)

- 9:00 ① 保育者の専門性の養成を培う授業内容のための一考察  
—大地震から学んだ学生の成長についての検討— ..... 114  
寺 島 明 子(松本短期大学)
- 9:30 ② かかわりの中での幼児理解  
—保育記録に記述された内容の特徴と幼児理解の関係— ..... 115  
岡 田 たつみ(帝京大学)
- 10:00 ③ 幼稚園教育実習における実践と指導案作成  
—養成学校専門科目と実習での実践を結ぶ— ..... 116  
神 戸 洋 子(帝京科学大学)
- 10:30 ④ 保育の質向上を支援する自己評価法  
—質問紙調査に見るその効果— ..... 117  
○芦 田 宏(兵庫県立大学) 門 田 理 世(西南学院大学)  
野 口 隆 子(十文字学園女子大学) 箕 輪 潤 子(川村学園女子大学)  
秋 田 喜代美(東京大学) 鈴 木 正 敏(兵庫教育大学)  
小 田 豊(国立特別支援教育総合研究所)
- 11:00 ⑤ 保育者養成における「ひと・もの・こと」に出会う体験型学習プログラムに関する  
実証的研究(3)  
—保育の理解を進める教育方法の検討— ..... 118  
○草 信 和 世(川村学園女子大学) 葉 山 登(川村学園女子大学)  
近 藤 千 草(川村学園女子大学) 箕 輪 潤 子(川村学園女子大学)  
菅 井 洋 子(川村学園女子大学) 内海崎 貴 子(川村学園女子大学)



課題研究Ⅰ

教育方法学における学問的固有性とは何か

— 算数・数学教育と理科教育の視点から —

(一般教育 2 号館 2 階203講義室)

コーディネーター・司会者

大野 栄三 (北海道大学)  
的場 正美 (名古屋大学)

提案者

小林 昭三 (新潟大学) 科学 (物理・理科) 教育 (内容・方法) 研究の  
進展・課題・展望 ..... 119  
岡野 勉 (新潟大学) 算数・数学教育研究の立場から ..... 121  
田上 哲 (九州大学) 授業分析・授業研究では算数・数学や理科の授業  
の何が問題になるか ..... 123

〈設定趣旨〉

課題研究Ⅰは、日本における教育方法学の存立基盤を探求することを大きな課題としている。昨年の第46回大会の課題研究に続いて、本年度は、自然科学系の教科における教育方法学の現状と果たすべき役割を分析し、多層的な視点から教育方法学の学問的固有性を問う。

1つは教育実践の歴史と現状分析の層である。明治以来、理科や数学の実践がなされ、戦後は、科教協、数教協などの民間教育研究団体や日本理科教育学会などの学術研究団体によって授業実践が研究されてきた。授業実践においては、目標設定、教材分析、指導過程、児童・生徒理解、教育方法は相互に密接に関連している。その分析と評価から教育方法学を再検討する。第2は、学習指導要領や教科書に示されている内容や知識、能力を相対化し、各教科から見た現代社会において求められる知識、能力を児童・生徒の発達に即して、検討する層である。第3は、子どもの生活基盤を含め、学びとはどのようなものであるかを検討する層である。第4は、教科における教育方法と教授学、教育学、および科学の関係を問う層である。提案者によってさらに視点が加わるが、多層的に教育方法学の存立基盤を明確にし、学問の固有性を再構築する討論の場にしたい。

課題研究Ⅱ

学校における言語活動の充実をどうはかるか

— 各教科における言語活動のあり方 —

(一般教育2号館3階301講義室)

コーディネーター・司会者

河原尚武(鹿児島大学)

鶴田清司(都留文科大学)

提案者

堀哲夫(山梨大学) 理科教育における言語活動と授業改善 …… 125

江間史明(山形大学) 社会科学習における論証と対話 …… 127

鶴田清司(都留文科大学) 国語科における言語活動の充実  
— 論理的な思考力・表現力の育成のために —  
…………… 129

〈設定趣旨〉

新学習指導要領では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ」ことが明記されている。そして、その観点から、各教科等において記録・説明・論述・討論といった言語活動が重視されるようになった。学校教育においては国語科だけが言語能力を育成する場ではないのだから、それは当然のことである。いずれの場においても、言語活動の充実をはかるためには、見かけの活発さや形式的な活動に陥らないように、児童・生徒がいかに主体的かつ論理的に思考し表現することができるかということが重要なポイントになる。こうした観点から、国語科と他教科との連携も視野に入れながら、各教科でどのような言語活動を展開するのか、その共通性(教科横断性)と差異性(教科固有性)は何かといった問題をめぐって議論を深めたい。

課題研究Ⅲ

教職スタンダードと教員養成教育の充実

(一般教育2号館3階302講義室)

コーディネーター・司会者

井ノ口 淳 三 (追手門学院大学)

藤原 幸 男 (琉球大学)

提案者

三 石 初 雄 (東京学芸大学) 教職スタンダードの研究動向と課題 …………… 131

八 木 英 二 (京都橘大学) 教職スタンダードの作成動向における情意の扱い  
について …………… 133

長 澤 憲 保 (兵庫教育大学) 教職スタンダードにもとづく教員養成教育の充実  
の取り組み

—兵庫教育大学での取り組みを中心に— … 135

〈設定趣旨〉

教職スタンダードは、教員養成段階において教職をめざす学生の身につけるべき資質・能力、到達目標・評価基準を記述した表である。これを開発・活用して教員養成教育を充実させ、教員として最小限必要な資質能力の到達度を確保するという動きは、中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(2006年)において「教職実践演習」の「到達目標及び目標達成の確認指標例」が明示されたことにより加速された。教職スタンダードの開発と実践は、教育職員免許法施行規則の改正で「教職実践演習」が必修化され、その実施が迫る中で、教員養成教育に携わるすべての大学の関心事になっている。

①教職スタンダード開発の研究動向はどのような状況にあるのか、②教職スタンダードをどのように捉え、どのような原則で作っていくか、③途中段階および最終段階において教職スタンダードを教員養成教育にどのように活用して教員養成教育の充実を図るか、について深めたい。

10月2日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル①

## 教育方法のトポロジー(4)

— 劇場的談話で探るドラマ教育の可能性 —

(一般教育1号館3階302講義室)

企画者

渡部 淳(日本大学)

司会者

深澤 広明(広島大学)

課題提起者

談話グループ1): 宮原 順寛(北海道教育大学)

渡辺 貴裕(帝塚山大学)

宮崎 充治(桐朋小学校)

談話グループ2): 武田 富美子(立命館大学)

青木 幸子(跡見学園中学高等学校)

三橋 謙一郎(徳島文理大学)

コメンテーター

和田 俊彦(跡見学園高校)

小松 理津子(秋田県立秋田明徳館高校)

藤井 洋武(東海大学)

〈設定趣旨〉

学習やコミュニケーションのツールとして、全身で学ぶドラマ活動がいったいどんな可能性と限界をもつものなのか、それを探る動きが活発化している。例えば、教科学習のなかにドラマ活動(演劇的活動)を取り入れる試みが広がっていること、また、コミュニケーション教育の一環として、文部科学省が演劇人などの専門家を学校に派遣し生徒にワークショップを体験させるプログラムを開始したことなどが顕著な事例である。そこで本ラウンドテーブルでは、これまでの実践・研究の成果を踏まえ、以下の三つの論点について深めてみたい。①教育方法としてのドラマ活動の特質とはなにか、②教師はドラマ技法をどう習得しているのか、③日本の学校で「ドラマ教育」は可能なのか。

今回は、以下のようなワークショップ形式での進行を考えている。趣旨説明→全体会で、初等・中等教育の実践・研究をベースにした課題提起グループの短い談話(1テーマ5分×6回)→課題提起者を囲む参加者の談話(小グループにわかれて同時進行)→全体会でのシェア。企画者は、本セッションを、ドラマ教育をめぐる“談話のコミュニティ”創出の第一歩と位置づけている。

なお、本ラウンドテーブルは、「ドラマワークによる文学作品の読解と教材開発」「ドラマワークを活用した教師研修の可能性」「教科学習と結びついたドラマ活動」に続く4回目のセッションである。

10月2日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル②

秋田大学のゲーミング・シミュレーション研究と教育実践  
— 大学における教育方法改革 —

(一般教育1号館4階405講義室)

企画者

井門正美(秋田大学)

提案者

井門正美(秋田大学)

秋田大学のゲーミング・シミュレーション研究会所属教員

〈設定趣旨〉

秋田大学ゲーミング・シミュレーション研究会は、2009年4月に設立した研究会だが、文科省の特色ある大学教育支援プログラムの本学プロジェクト18特色GP(「ゲーミング・シミュレーション型授業の—社会的実践力を培う体験的学習プロジェクト—」)を継承・発展させるために設立された。18特色GPは大学の教育方法改善を意図したものだが、そこで提唱した「ゲーミング・シミュレーション型授業」(GS型授業)とは、「ゲームやシミュレーション、ロールプレイングなどの状況再現的・体験的手法を用いて考察対象の理解や問題の解決を図る学生参加型授業」であり、この教育方法を講義や座学に偏りがちな大学の授業改革に活用し、知識と行為の統合的な学習を推進して、真に社会的実践力のある学生を育成することをねらった。GS型授業実践は、教育文化学部の教員が中心となって、様々な形で展開し、開始時には20科目程度であったこのタイプの授業も、最終的には90科目ほどの科目がGS型授業として登録されるに至った。実質的に稼働している授業科目の1割を超える授業数となり、今日、学部カリキュラムポリシーに、学生参加型の授業方法として明記されるに至っている。

今回のラウンドテーブルでは、この教育文化学部におけるGS型授業を始め、工学資源学部で行われているモーションキャプチャや歩行者シミュレータなどのゲーミング・シミュレーション研究、そして医学部で実施されている標準患者試験(模擬患者試験)や車いす体験等の実践などから、代表的な実践例を紹介し、大学における教育方法改革について紹介したい。

参加者の皆様との意見交換や議論を期待しています。

10月2日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル③

教師の実践とまなざしが変わるとき

(一般教育1号館3階305講義室)

企画者

齋藤智哉(國學院大學)

杉山二季(駒澤大学・非常勤講師)

司会者

藤井康之(奈良女子大学)

提案者

増田美奈(東京大学大学院)

佐藤孝祐(明治大学付属中野中学校・高等学校)

北田佳子(富山大学)

齋藤智哉(國學院大學)

〈設定趣旨〉

教師は自らの実践を振り返ることによって、より豊かな子どもたちの学びを生み出すことへとつなげていく。実践の振り返りは、授業場面における自らの見とりや気づきによって引き起こされる場合もあるが、さまざまな研修の場面における同僚の実践の観察や、同僚や管理職、外部講師などによる助言、書籍による理論的整理などを媒介にして起こっている場合もある。このように、自らの実践を振り返る多様な機会を得ることは、教師の子どもへのまなざしや実践に変化をもたらす、教師が学び成長することの重要な契機となる。

本ラウンドテーブルでは、教師自身の実践の振り返りを手がかりとして、教師たちはどのようなときに実践を振り返る契機を得たのか、振り返りのなかで自らの変容をどのようにとらえていたのか、変容によって次の実践がどのように変わったのか、などに焦点をあてながら、教師の実践やまなざしの変容の多様なありかたを探ることを目指す。提案者からは、教師の実践とまなざしの変容がどのような関係において起こり得たのかについて、次の3つの事例を提示する。「子どもたちとの関係における、ある一人の子どもへのまなざしの変容」、「研究者との関係における、授業スタイルの変容」、「同僚教師たちとの関係における、『校内研修会』を通じた実践の変容」という3つの事例である。それぞれの事例を、変容を実際に経験した教師や、その教師の傍らにいた研究者らによって語り起こすことを通して、議論の糸口としたい。

上述のことを踏まえ、本ラウンドテーブルでは、実践者側が経験した異なる視点からの変容のあり方と、研究者側がこれまで見てきた教師の変容の姿を重ね合わせながら、教師の実践とまなざしの変容がどのように生じるのか、参加者とともに議論を深めていく。

ラウンドテーブル④

大学研究者は授業研究にどのように関わっているのか(2)

(一般教育1号館3階303講義室)

企画者

鹿毛雅治(慶應義塾大学)

藤本和久(慶應義塾大学)

大島 崇(九州大学大学院  
日本学術振興会特別研究員)

司会者

藤本和久(慶應義塾大学)

提案者

秋田喜代美(東京大学)

鹿毛雅治(慶應義塾大学)

木原俊行(大阪教育大学)

小林宏己(早稲田大学)

田上 哲(九州大学)

〈設定趣旨〉

昨年のラウンドテーブルでは、大学の研究者が学校現場の授業研究に対してどのように関わっているのかを語り合いました。各提案者がひとつの学校とどのくらいの期間、どのようなスタンスでかかわり、またどのようなことに気をつけているのかなど、多様な考えが出されましたが、データ収集に象徴される研究者のためのかかわりというよりは、「研究者がかかわることで授業者をはじめとする当事者に直接の利益となることを何より尊重している」という思いは共通して出されました。いわば、現場にかかわる研究者の信念がラウンドテーブルの対話の中で自覚化されたと思います。

今年度は、そのことを前提としながらも一歩踏み込んで、授業をオンゴーイングで観察しているあいだ、「われわれ研究者は何をどのような意図で見とり、見立てているか」を、対話の中で再認識・再発見しあいたいと考えています。この作業は研究者が誰のための何のための研究かという信念や態度をベースに持ちつつも、実際に授業を見ているあいだ、何を「メモ」し何を意味づけ何を後に教師たちと共有したいと考えているか、また研究者が基礎とする専門性とその視座にどのように影響しているかという点について可視化・言語化していくことにもつながるようになります。

具体的には、現場で実際に使用しているノートやメモを持ち寄り、それらをスライド等で可能な範囲で示しあいながら、自己分析や相互批評を展開する円卓になり、提案者による相互刺激はもちろんのこと、フロアにて教育方法学会に集う研究者（とりわけ若手の研究者たち）が授業実践を見る視点を、固有の事例を通して感得できる場にもなることを期待しています。

10月2日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル⑤

## 教育方法学の中堅・若手研究者に求められる 力量・役割について考える

(一般教育1号館1階103講義室)

企画者

小柳和喜雄(奈良教育大学)

課題提起者

|    |    |        |
|----|----|--------|
| 島田 | 希  | (高知大学) |
| 助川 | 晃洋 | (宮崎大学) |
| 高橋 | 英児 | (山梨大学) |
| 姫野 | 完治 | (秋田大学) |
| 吉永 | 紀子 | (福島大学) |

〈設定趣旨〉

教員養成系の大学や教職課程を持つ大学では、教員養成の質保証、教職大学院の設置、4+ $a$ の教員養成などが言われ、制度化されてくる中で、様々な対応を迫られてきている。そして多様なキャリアを持つ教員が採用され、それぞれの特性を活かす勤務や協働が模索され、各大学で実践がなされてきている。

そのような中で、教育方法学を専門とする教員は、その対応範囲が広い(研究の射程範囲が広く柔軟な)ことから、初等中等教育への関与だけでなく、高等教育においても、複合的な課題に絶えず関与していくことが求められてきている(勤務先(大学)での教育課程・教育の方法の研究、FDへの関与、教務関係の業務、GP、概算要求申請と執行ほか)。

そこで、本ラウンドテーブルでは、教育方法学を専門とする教員が、現今の情勢の中で、また今後の動きの中で、どのような専門性を保持し、活かし、さらに新たなものを獲得しながら、その役割を果たしていったらいいのか、そのために求められる力量はどのようなものかを、論議する。とりわけ、今回は、中堅教員として現在勤務先で、またその地域で、様々な役割をこなすことを求められ、実際にこなしている方々を課題提起者として迎え、現在取り組んでいること、ここに至るまでにしてきたこと、若手の時にしておいた方がよかったこと、などこれまでの経験を元に語ってもらう。

そして、この論議を通じて、中堅の教育方法学研究者の役割、立つ位置、アイデンティティ、磨いていく力量などを明らかにしていくとともに、それを通じて若手の教育方法の研究者に、今後一緒に働いていくために考えてきてほしい、磨いてきてほしい力量についてメッセージを届けることを目的としている。

また、教育方法学研究の中堅・若手研究者の存在・力量・役割に関して考える研究コミュニティの構築へ一歩踏み出すことも目指している企画である。

様々な経験、お立場の皆様にご参加いただき、このラウンドテーブルで話されることに絡み、様々なご意見やお考えを出していただけることを期待しております。よろしくご参加のほど、お願いいたします。



ラウンドテーブル⑥

伝える、教える、言葉・身体、メディアの活用

(一般教育1号館1階107講義室)

企画者

保崎 則雄(早稲田大学)

課題提起者

鈴木 広子(東海大学教育開発研究所)

山地 弘起(長崎大学)

北村 史(早稲田大学)

〈設定趣旨〉

教育現場でのコミュニケーション活動は、教授者－学習者、学習者同士のみならず、学校関係者－保護者／地域住民等、多岐にわたっている。それら各所で行なわれるコミュニケーション活動では、言語、身体、メディアが使用されている。本ディスカッションでは、日常の教育活動の方法として使用される伝達モードとして挙げられるのは、まず、言語というシンボルシステムであると位置づける。このことは新学習指導要領にも強調されている。さらに学習活動としての言語使用もさることながら、目的的表现(交渉、問題解決、説得など)から、自己表現を主たる目的とした創造的な活動である芸術的表现といったものまでを含めて考える。

次に、身体表現、つまり身体と心の連動、分離の重要性についても教授学習状況においては重要であると考ええる。身体が伝えるものは、心であり、その表象としてのものが言語表現となる。心、身体、言語というのは三位一体の伝達モードシステムであると考えられる。

最後に、現代社会において、メディア使用が日常的であることを鑑みると、メディアリテラシー力が重要である。テキストメッセージの読み解き、ヴィジュアル表現の解釈から、既存のメディアメッセージの活用、さらに現代の安価な撮影機材、ノンリニア編集プログラムの活用を背景にした創造的制作活動の活況化といったことが重要視される。

本ラウンドテーブルディスカッションでは、これらの3モードの紹介をし、それらの有機的使用、連合を参加者とのインターアクションを通じて計ることとする。

これらの3モードの育成の重要性を考え、教室における教育コミュニケーション活動(伝える、伝わる、教える、学ぶ)の方法としての更なる効果、学校内のみならず、地域コミュニティにおける伝え、学び、教えというものの発展をも視野に入れて、考えたい。

ラウンドテーブル⑦

## 新たな中学校・高等学校教育への道

—「18歳を市民に」—

(一般教育1号館4階402講義室)

企画者

望月一枝(秋田大学)  
白石陽一(熊本大学)  
久田晴生(大同大学)

課題提起者

井沼淳一郎(大阪府立福泉高等学校)  
佐藤謙一(秋田県立雄物川高等学校)  
岸田康子(立命館中学校・高等学校)  
井上大樹(北海道教育大学・非常勤)

〈設定趣旨〉

高校教育は、何をするとところなのか。高校生とはどういう存在なのか。高校教育の根本目標自体が揺れている。

高校とは、上級学校への回路として、将来のための準備としての勉強だけをするところでのいのか。そこでは、「学校から職場へ」といったストレートな回路が幻想されてはいないだろうか。高校とは、完成教育なのか準備教育なのか、カリキュラム自体の再編はあるのか。後期中等教育の柔軟な義務化を視野に入れながら、若者すべてに必要な教養やスキルを身につける高校教育が求められている。若者を取り巻く労働や家族の問題、そして経済的「貧困」はさまざまな人生設計のチャンスを奪うがゆえに社会的「排除」を生み、「溜め」のない生育史では、「希望」においても格差が生じる。これまでの高校教育を問い直し、中学校・高等学校教育を福祉や労働や法律とつなぐ必要に迫られている。中学生・高校生を社会的存在として遇し、社会への「参加」、「権利」の行使などを育成する道筋を探っていきたい。これは、近年注目されている「シティズンシップ」教育を豊かにすることにもつながってくる。

上記のことは高校現場では切実な課題として自覚され、注目すべき実践も報告されている。

そこで以下のような報告を予定している。

司会 白石陽一(熊本大学)

- ① 労働法をめぐる「知」「技」「ネットワーク」を学び合う授業実践(「アルバイトで雇用契約書をもってみる」)。この実践は、授業という枠を超えて、いわゆる生活指導、進路指導、職業教育という領域と交差している。(井沼淳一郎 大阪府立福泉高等学校)
- ② 中・高一貫校における授業とホームルーム実践(岸田康子 立命館中学校・高等学校)
- ③ 地域に根ざす学校づくり—「高大連携」の試み(佐藤謙一 秋田県立雄物川高等学校)
- ④ 夜間中学における若者支援(井上大樹 北海道教育大学)

コメンテーター (久田晴生 大同大学、望月一枝 秋田大学)

このような先進的な実践報告を手がかりに、多様な分野・領域からの参加者の意見を得て、活発な議論を期待したい。この過程で、「市民」「シティズンシップ」「公共」といった概念の意味内容も吟味され、それが共有されることも期待したい。

ラウンドテーブル⑧

保育者養成における学生が育つ授業の方法について

(一般教育1号館4階403講義室)

企画者

寺島明子(松本短期大学)

提案者

寺島明子(松本短期大学)

隣谷正範(松本短期大学)

〈設定趣旨〉

昨年度もこのタイトルでラウンドテーブルを開催させて頂いた。参加者はあまり多くなかったが、参加頂いた先生方からは、学生への授業内容について話して貰い、意見交換の形式で会を進め大変有意義であった。そこで本年度もこの会を開催しようと考えた。

学生が卒業し就職していく幼稚園や保育園の現場では、多くの問題を抱えている。時々幼稚園や保育園を見せて頂き、研修会に参加させて頂くと、落着けない、集中力がない、自分勝手な子ども達などが多くなっている。このような現場の状況の中へ、養成校を卒業し就職していく学生に、どのような力をつけさせ卒業をさせれば、現場で子どもたちを支援していくことができるのであろうか。

そのためには、保育者養成校において、学生に対する教育実践地が必要である。この教育実践地でのさまざまな学びが、学生の内実形成に役立つと考えている。

つまり、「教育実践地研究」の構想と実際を生み出す授業実践が大切である。

これらのことを踏まえて、当ラウンドテーブルでは、学生の置かれている状況を把握しながら、「保育者養成における学生が育つ授業の方法について」、どのような授業内容を提供していけばよいのか検討を行う。また、参加頂いた方々より積極的なご意見をお聞きしながら、学生にとって育つ授業内容を考えていきたい。

保育者養成校で教鞭をとっておいでの先生方や、将来養成校の先生になりたい学生の方々にお集まり頂いて、積極的な検討を期待したい。

10月2日(日) 15:30~17:00

ワークショップ①

**授業記録を活用した国際比較授業分析**  
— 日本とシンガポールにおける中学校理科を対象に —

(一般教育1号館3階301講義室)

企画者

柴田好章(名古屋大学)

課題提起者

久野弘幸(愛知教育大学)

サルカール アラニ・モハメッド レザ

(星城大学・研究員, 名古屋石田学園・中等教育研究部長)

田村知子(中村学園大学)

石森広美(宮城県立仙台東高校)

〈設定趣旨〉

本ワークショップでは、提案者らが協同して研究を進めている比較授業分析を行う。比較授業分析は、逐語記録にもとづく質的な授業分析の方法を用いて、異なる国の授業の共通性や差異から、互いに有益な知見を見いだすことをめざしている。今回のワークショップでは、日本とシンガポールの中学校の理科の授業を対象として、比較授業分析を行う。対象とする授業の逐語記録を作成し、教師の指導過程、学習者間の相互作用、学習者の学習成果の3つの視点によって、研究者、教師の立場から質的に分析する。ワークショップでは、まず、提案者側から、分析対象授業の紹介、提案者らによる研究者の立場からの分析結果の報告、事前開催した授業検討会における教師の立場からの分析結果の報告を行う。そして、ワークショップの参加者にも、授業の一部分の記録を示した上で、実際に分析を行ってもらい、意見交換をする。これらによって、国を超えて、授業あるいは学習という事象における共通する知見や課題が明らかになると予想される。また、両国の教育の制度や文化背景を考慮しつつ比較文化論的に考察することによって、授業の有する文化的固有性についても明らかになると予想される。こうした成果に基づき、最後に参加者も交えてディスカッションを行い、今後の授業研究の国際化を展望したいと考えている。